

令和6年2月9日（金）

令和5年度 大阪府立桜塚高等学校 第3回 学校運営協議会

場 所 会議室

時 間 18:00～19:30

准校長 今西 良介

委 員 古川 知子、島村 宏二、北之坊 晋次、永井 敏輝、崎阪 治、小川 美香

事務局 小西 基裕（教頭）、根岩 直希（首席・生徒指導主事）、大矢 征礼（進路指導主事）、
室津 敬一郎（事務主査）

1 会長・准校長 挨拶

2 報告

令和5年度学校評価について

准校長：学校教育自己診断の結果を見ると、年度ごとに結果が大きく異なっており、全体としての傾向がみられない。これは、生徒数の少なさに起因するものと考えられる。今後はより精度の高いアンケートを実施したいと考えている。

令和5年度の学校経営計画の自己評価であるが、「確かな学力の育成と生きる力の獲得」という中期的目標については、短縮授業日をさらに削減するという目標を設定していたが、達成できていない。短縮授業日をさらに削減する余地がないということと、短縮授業後の放課後の時間は担任が生徒や保護者と面談する時間として必要であることから、短縮授業日は残している。「未来の想像に向けた希望と意欲を育てる支援体制の確立」については、人権に関する項目が昨年度数値を下回っており、目標を達成することができなかった。これは、人権をテーマとした授業や講演会等の実施が少なかったためであると考えている。今後は、行事等で人権を意識させるのではなく、日常から生徒一人一人が自分は大切にされているなど実感できるような教員と生徒の関係づくりが重要になると考えている。次に「公務の効率化と働き方改革の推進」についてであるが、こちらは全ての目標を達成することが出来た。働き方改革において一番大きな課題となっているのは部活動であるが、本校では部活動の時間は1時間程度で22:30には全員が下校するという仕組みができていたため、教員の負担を軽くすることが出来ている。また、連絡事項と職員会議等は完全にペーパーレス化することができた。学校運営と地域連携の項目については、公開授業見学者は目標数に達した。文化祭来場者数は目標を大きく上回る100名以上に来校していただくことができた。また、地域連携に関しては豊中市の社会福祉協議会から複数回にわたって食料支援のサポートをいただき、感謝申しあげる。

〔質問〕

- 委員 A アンケートの回答で母数が少ないために傾向が読み取りにくいということはわかるが、府立の定時制全体で情報交換して、共通する課題などがあれば、精度の高い見方ができるのではないか。
- 准校長 それはしていない。学校ごとに質問項目などが異なるので、一概に比べることができない。生徒が真面目に回答しているのは確かだが、年度によってあまりにも結果が変わるので驚いている。
- 委員 B 傾向が変わるのは具体的にどういったものか。
- 准校長 具体的には、「本校に入学して良かったと思う」という質問に対しては、肯定的な回答率が毎年 80%を超えるが、95%近い年度があったり 80%や 85%の年度もあり、10 ポイント程度の差が出ている。その原因は特定できていないのが現状である。
- 委員 C 実施時期や実施形態、回答率はどうなっているか？
- 准校長 各学年で実施時期は同じである。HR にて、一人一台端末を活用して実施している。回答率については、紙媒体で実施していた時と比べると若干下がる。これは、実施当日に欠席した生徒が、その後担任から説明を受けても回答していないことがあるからだと考えている。
- 委員 D 授業公開で保護者が 2 名だけだが、なぜか。保護者には興味がないのか、参加しにくい時期なのか、情報がそもそも伝わっていないのか。
- 委員 E 親の思いで定時制に通わせている保護者が多いと思う。アンケートから読み取れる。それであるなら、保護者の方も見学に来そうであるので、不思議である。
- 委員 F 他の親との交流があればよいと思う。周知方法をご検討いただきたい。保護者も孤立していると思うので、保護者どうしが交流できる場があればよいと思う。
- 委員 A 定時制高校には、成人の生徒も在籍しているので保護者という概念が難しいところがある。授業参観日というような形で、期間を設けるのではなく、特定の日を設けてはどうか？
- 委員 B 授業公開の日が何日もあるのはよいと思う、特定の日だと仕事の都合等で参加が難しいことがある。

3 協議

令和 6 年度学校経営計画について

- 准校長 令和 6 年度の学校経営計画については、より具体的な行動を示すということに主眼を置いて作成した。主な変更点については、「令和の日本型学校教育」の構築をめざすという文言を削除し、より具体的に、「自ら考えて 正しく判断し行動する力」を獲得するという文言を追加した。また、個別最適な学びの実現に向けた生徒達へのアプローチをより具体化するため、「授業や学校生活を通して生徒個々をサポートする。」という文言を追加した。学校としては、定時制の生徒達が社会で生きていく力を身につけるために、様々なことを求めてしまうが、それが生徒達にとっては大きな負担となってしまっている。このような生徒の状況をサポートするためにも、この文言を追加している。中途退学の防止については、単に中途退学を防止するということを目標とせず、「希望を失っての中途退学の防止に努める」ということを目標としている。生徒が自ら希望した進路変更であれば構わないと考えている。次に具体的な取り組みについてであるが、一人一台端末については多くの教職員

が授業やアンケートで活用するようになっている。今後は休みがちな生徒に対しての学習保障の意味合いでも一人一台端末を活用できる体制がとれればと考えている。会議については、すでに時間の短縮や回数の削減もなされている。今後は、必要な情報の共有が正確にできているのかということに着目したい。情報共有のシートをweb上に用意しているので、全教職員が1日に1回は情報共有シートを確認するということを徹底していきたい。また、管理職による個別面談を年間4回以上実施したいと考えている。人事評価を行ううえで、定められた面談の回数は3回であるが、本校は比較的教職員の人数が少ないといことを活かして、管理職と定期的に話ができる機会を作りたいと考えている。

〔質問〕

委員 A 定時制というのは4年ある。生徒と先生がどちらも成長していくと思う。定時制は特に生徒と先生との関係性が大切である。今も先生方は生徒の気持ちによりそった指導をしていることと思う。先生方の余裕がなくなると生徒にかかる時間が減るし、学校の運営も難しくなると思う。がんばってください。

4 本年度の取り組みについて

(1) 教務部からの状況報告

令和6年度の行事予定について、主な変更点が3つある。1点目は、遠足を平日に実施する点である。2点目は全日制課程の文化祭実施日を休業とする点。3点目は成績処理の日数を1日増やすという点である。

(2) 生徒指導部からの状況報告

まず指導に関する報告である。前期については、授業中におけるスマートフォンの利用が多かったが、後期においては改善された。スマートフォンの使用については、全校生徒向けの講演も行い、各生徒にスマートフォンやSNSの使用について考える機会をつくった。

(3) 進路指導部からの状況報告

今年度の卒業予定生徒数は3年生の通信制1名と4年生で26名になる。卒業後に希望する進路としては、就職を希望する者が16名、進学を希望する者が9名、アルバイトを希望する者が1名であった。今年度の特徴としては、進学を希望する者が非常に多かった。就職を希望する者に関しては、学校斡旋での就職を希望する者が13名おり、そのうち12名が内定を獲得している。進学を希望する者に関しては、4名が大学進学を希望し、5名が専門学校への進学を希望している。全員合格しているが、大学進学を希望する者1名については、これから国公立大学を受験する予定である。アルバイトを希望する者1名については、保護者と同じ会社に勤務することを希望している。

〔質問〕

委員 A： 生徒数に関して、1年生は入学して1学期のうちにやめる生徒が多かったと思う。2年に進級できないということで退学するという生徒が多かったと思う。逆に2年に進級すると大丈夫だという印象だが、1年が多く残っているのはなにか対策をしたのか？

准校長： 特に対策はしていない。推測だが、そのような生徒は最初から通信制高校に進学していると思う。

委員 B： いま来ている1年生はどの程度か。

准校長： 大体35～40人程度が登校している。ほとんど登校していない生徒が一部いる。

委員 C： 就職はよい成績なのか？

進路部長： 学校斡旋就職を希望する者は多くが内定を獲得している。企業の方でも人材不足の企業が多いので、就職自体は難しくない状況がある。ただし、就職してもすぐにやめてしまうのが課題である。

委員 D： 大学であってもどこも同じ課題を抱えている。

進路部長： 学校としてはミスマッチは防げるようにしたい。

委員 E： 豊中市の無料職業紹介所だと就職後のフォローもしている。定時制の生徒に対してはフィードバックをどこがやるかは難しい課題である。

進路部長： 定時制高校間で情報を共有しているとアルバイト経験がある生徒は早期退職する率が低い。

委員 F： 夜桜の生徒がアルバイトをしている様子を見るが、お店の人に聞くと評価が高い。だから、学校からアルバイトを斡旋などはできないか。今、生徒が就職している企業とそのような付き合いはあるか。

進路部長： 本校生徒が就職している企業からは指定校求人がきている。ここ数年で企業との関係ができている。この関係性から職業体験などできればよいと考えている。